

「こわかった土しゃさいがい」

山形県 白鷹町立鮎貝小学校 3年 ^{すずき}鈴木 ひびき

7月18日に、わたしの住んでいる白たか町に大雨がふりました。学校から帰る時、先生から、「近くの川があふれたので、川の近くで遊んだり、近よったりしないでください。」というお話がありました。気をつけて家に帰ると、わたしの家にも川からあふれた水が入り、お母さんとおばあちゃんがバケツとちりとりを使って水かきをしていました。わたしの家は、お店をやっているの、商品がぬれないように守るのがとてもたいへんでした。

さいしょは、うらの八まん様から流れてきた水が、店の横からものすごい勢いで入ってきました。そのあと、店の前のそっこうの水があふれ、店の中まで入ってきたのです。入ってくる水を止めるため、いらなくなったこたつがけのカバーやバスタオルなどでひしに止めました。お母さんは、「土のうがあればよかったな……。」と言っていました。

大雨がふって二日後、お父さんとひじりお姉ちゃんと、わたしの友だちのすず花ちゃんのお父さんとたくまくんとすず花ちゃんとわたしで、土しゃさいがいのあった所を見に行きました。そのげん場を見て、わたしはびっくりしました。なぜかという、川の両はしが土しゃくずれにあい、石がきの所がくずれ落ちていたからです。わたしは、じょうぶな石がきがあんなひどいことになるのをはじめてみたので、足が止まってしまいました。そして、「大雨ってこわいな……。」

とつぶやいてしまいました。そのあと、道の土しゃくずれを見ました。道の右がわにぽかっとながあいていて、工事をしている人がとてもたいへんそうでした。

わたしは、土しゃさいがいのニュースで人が亡くなったり、家がこわされたりしているのを見たことがあります。でも、わたしの住んでいる町にもそんなことがおきるなんて、思ってもみませんでした。今回のさいがいで、わたしはしぜんのおそろしさを知りました。もし、また今度こんなさいがいがおきても、わたしは、自分の身は自分でしっかりと守り、上手にひなんしたいと思います。でも、もう二度とあんなおそろしいさいがいがおきないといいです。